

学生論文特集の発行にあたって



学生論文特集編集委員会

委員長 井口 和久

学生論文特集は今回で第7回となる。2012年より始まった本特集は、第1回から一貫して「日々高度化する技術を体系的に学ぶと共に研究の最先端を担っている学生に、その研究成果を論文として発表する場を分野横断的に与え、若手研究者による新しい研究交流を促進する」こと、及び「論文執筆経験が必ずしも十分でない学生に対して、より指導的・教育的な査読を通して研究活動を支援する」ことを編集活動の目的とし、ISS和文論文誌編集委員会が全員で編集に当たっている。

本特集は筆頭著者が学生であることを踏まえ、採録条件や不採録理由等のコメントを通常よりいっそう丁寧に記述することを心掛けている。先行研究の十分な調査に基づく新規性のある提案、信頼性の高い実験により示される提案手法の有効性、そしてこれらを整理し首尾一貫した論文としてまとめる了解性の高さは、執筆に用いる言語にかかわらず論文に必要な要件である。残念ながら今回不採録と判定された論文も、コメントを参考に修正し、是非再チャレンジしてほしい。

投稿数は前々回の20編、前回の36編に対して今回は43編と増加傾向にある。本特集の査読基準は通常の論文と同一であり、学生論文特集なので評価が甘いということはない。厳正な審査の結果、今回の採録は16編

となった。採択率は37%と一般論文と同程度である。本特集では第2回から、新規性、有効性、信頼性、了解性の少なくとも一つの項目において特に秀逸で、学生としてよく健闘したと称賛に値する論文を秀逸論文として特集編集委員会が認定している。今回は次の2編の論文を秀逸論文とした。「記号モデル検査によるスマートオブジェクトの近接連携シナリオの効率的な検証」は形式検証技術を正確に理解しやすい形で記述し新しい問題に適用した信頼性が評価され、「異質なデータを統合した敗血症患者の転帰予測システム」は救急医療現場の課題に即した手法を提案した有効性が評価され、それぞれ秀逸論文に認定された。

最後に、本特集を発行するにあたり、論文を御投稿頂いた皆様、タイトなスケジュールにもかかわらず丁寧な査読を行って頂いた査読委員の皆様、企画・編集に尽力して頂いた編集幹事、編集委員の皆様、ならびにサポート頂いた事務局の皆様にご心より感謝を申し上げます。今後も本特集が継続的に企画され、若手研究者の支援・育成を支えていくことを期待している。

いぐち かずひさ
井口 和久（正員：シニア会員） 1993年、東京工業大学大学院理工学研究科修了。同年NHKに入局。同放送技術研究所において、映像方式変換、映像シーン記述、映像符号化の研究に従事。映像情報メディア学会会員。

学生論文特集編集委員会

委員	長 幹 事 員	井吉	口本	和潤	久一郎	・籠岩	嶋田	岳具	彦治	・横衛	川藤	智将	教史	・河小	田林	佳克	樹匠
		青木	西村	昭一	亨悟	・倉合	立田	尚和	明生	・小酒	尻向	辰智	史子	・佐蘭	林藤	光太郎	成忍
		近佐	藤藤	智	晃和	・佐中	田	信明	夫夫	・篠中	村田	慎隆	宏豊	・長福	谷川	健隆	一義
		二原	宮口	洋尚	亮治	・林松	尾	雄康	介孝	・平三	浦	幸	豊也	・福山	井下		
		福吉	田田		史	・渡	辺	哲	也								